



日本遺産

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

北前船が栄えた時代、直江津は「^{いままち}今町」と呼ばれ、高田藩の外港である今町の港には北前船が寄港しました。北前船は物を運んだだけでなく、各地の食文化や唄・踊りなどさまざまな文化も運びました。

詳しくは



東西から伝わった民謡

北前船の船乗りたちにより伝えられたとされる民謡には、「^{べいだいしゅう}米大舟」や「^{ふなかつたぶし}直江津舟方節」があり、市内で今でも踊り継がれています。「米大舟」の元歌は出羽国（現在の山形県）の酒田節といわれ、歌詞や踊りの所作は少しずつ違いますが、今でも大潟区と八千浦地区で踊られており、上越市無形民俗文化財に指定されています。「直江津舟方節」は、島根県海岸部と瀬戸内海の島々で今も歌われている「^{いずもぶし}さんご節」から派生した「^{やすぎぶし}出雲節」や「安来節」が元歌といわれています。酒席での騒ぎ唄として、形を変えながら日本海沿岸の港に伝えられました。



米大舟を踊る様子



直江津舟方節を踊る様子

米大舟を伝えた^{かめだいへえ}亀田伊兵衛

^{きょうほう}享保年間（1716～1736年）の初めの頃、上越地方は度重なる^{かん}干ばつと長雨により、米の凶作に見舞われました。食料不足となった大潟の住民は、今町（現在の直江津）を訪れていた北前船の船頭である亀田伊兵衛に助けを求めたところ、伊兵衛は地元の酒田から義援米を募り、大量の米を運んできてくれました。これには住民も涙を流して喜び、感謝の気持ちを込めて宴の席を設け、そこで伊兵衛が披露した踊りが米大舟の始まりと伝えられています。伊兵衛のお墓は大潟区の^{さいねんじ}西念寺敷地内に、顕彰碑が大潟区公民館敷地内に建てられています。



亀田伊兵衛の顕彰碑（大潟区湯町）

広報対話課から

☎025-526-5111

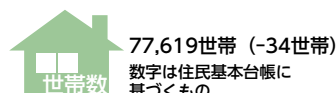
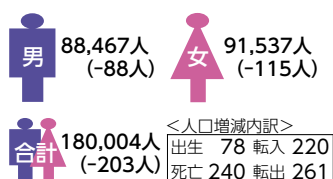
「広報上越5月号」は、4月23日㊥・24日㊥に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市ホームページアドレス <https://www.city.joetsu.niigata.jp/>

㊥70（古紙パルプ配合率70%再生紙を使用）

上越市の人口・世帯数

令和7.3.1現在。（ ）は前月との比較



表紙のことは：みんな笑顔でいただきます！

子どもたちの居場所づくりに地域で取り組む「こども食堂」。市内に6つあるうちの一つ、「清里いばしょベース Cha-ya」にお邪魔しました。ボードゲームを楽しんだり、テーブルを囲んで楽しそうに昼食を食べたりしている様子がとても印象的でした。子どもと地域の人たちが笑顔でつながる居場所づくりが、市内各地で広がっています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。